

## 2つの肺炎球菌ワクチン

『これから肺炎球菌ワクチンを打つ65歳以上の方は、まずプレベナー13を接種し、1年以上空けてニューモバックス NP を打つのが良いと考えられています』 詳しいことをご知りになりたい方は長文ですが、下記の文章に目を通してください。

病原体に感染すると、病原体の構造の一部を免疫システムが異物（抗原）として認識し、抗体を作ります。再感染時に速やかな感染防御を行うためです。免疫を誘導する方法のひとつが予防接種です。肺炎球菌は、高齢者の肺炎の起炎菌として最も頻度の高い細菌です。肺炎球菌のワクチンには「ニューモバックス NP (23 価莢膜ポリサッカライド肺炎球菌ワクチン)」と「プレベナー13 (13 価結合型肺炎球菌ワクチン)」の2種類があります。

「ニューモバックス NP」は、65歳以上の高齢者に5年毎に接種するもので、肺炎球菌の莢膜抗原を利用した多糖体ワクチンです。一方2010年に発売され小児科領域で髄膜炎予防に使用され始めた「プレベナー13」は、抗原認識されにくい多糖体に、たんぱく質を貼り付けることにより抗原性を増強させた、キャリアタンパク結合型の肺炎球菌ワクチンです。2014年6月高齢者への適応が拡大されました。「プレベナー13」は、T細胞を介した免疫応答が確立され、その後に接種するワクチンの免疫応答の増大も期待できる有望なワクチンです。

米国ではこれら2つのワクチンを使った高齢者向けの接種スケジュールが以下の様に発表されています。①プレベナー13 → ニューモバックス NP 6~12か月空けて接種。②ニューモバックス NP → プレベナー13 1年以上空けて接種。

日本において現時点で理想的と思われる、肺炎球菌ワクチンの接種方法は以下の通りです。

- ① これから初めて肺炎球菌ワクチンを接種する高齢者で65歳以上の基礎疾患がある方：  
プレベナー13を先に接種 → 1年以上空けてニューモバックス NP かプレベナー13を追加接種
- ② 65歳以上でニューモバックス NP を接種したことがある基礎疾患のある方：  
ニューモバックス NP から1年以上空けてプレベナー13を追加接種
- ③ 問題となる基礎疾患がない65歳以上の定期接種対象者：  
ニューモバックス NP を打った後、効力が弱くなる前にプレベナー13を追加接種
- ④ 施設入所者には、ニューモバックス NP が実績豊富。

現在のところ「プレベナー13」は全額自費扱いとなります。当院では実費負担11,000円にて接種しています。また65歳以上にしか適応がありません。肺炎球菌ワクチンは、今後多くの情報が集まり、さらに有効な接種の方向性が打ち出されると思われます。詳しくは診察の際お尋ねください。